

2021年04月27日

## 【格付維持】 新生銀行グループ各社

格付投資情報センター(R&I)は上記の格付を公表しました。

<格付見直し結果> 格付対象は後記をご参照ください

発行者(証券コード)	発行体格付	格付の方向性	短期債務/CP
新生銀行(8303)	A-(維持)	安定的	a-1(維持)
アプラスフィナンシャル	A-(維持)	安定的	—
アプラス	A-(維持)	安定的	a-1(維持)
新生フィナンシャル	A-(維持)	安定的	—
昭和リース	A-(維持)	安定的	—

## 【格付理由】

## ○新生銀行

ストラクチャードファイナンスなどニッチで専門性の高い事業領域と、買収で拡充してきたコンシューマーファイナンス事業に強みを持つ。営業基盤の規模は大きくないが、安定的な事業が徐々に拡大し、営業基盤の安定性は少しずつ高まっている。ニュージーランド最大手のノンバンクUDC Financeを100%子会社化するなど、新たな収益基盤を獲得する動きもみられる。

グループ会社との融合は着実に進んでいる。間接部門の集約に加え、ビジネスを法人・個人のビジネスユニットに分け、グループの事業戦略・企画機能を一体化した。法人分野は昭和リース、個人分野はアプラスや新生フィナンシャルの機能・ノウハウを活用し、最適なサービスを提供する体制構築を進めている。

注力分野の小口ファイナンスでは、マーケティングやリスク管理、オペレーションの高度化を図っている。自身の業務運営で培ったサービス・ノウハウを価値共創ビジネスとして提携先に提供し、顧客基盤の制約を超えた成長を目指している。機関投資家向けビジネスでは風力発電など新たなアセットファイナンスに取り組むほか、販売方法や提供商品の多様化を進めている。

コロナ禍で資産の質には下押し圧力がかかっているものの、比較的健全な状態を保っている。政府の経済政策が寄与したほか、慎重な与信業務運営が浸透しポートフォリオのストレス耐性を高めてきたことが奏功している。貸し出しにはストラクチャードファイナンスの割合が高く、ホテル向けなどコロナ禍の影響を受けた分野も相応にあるため、引き続き動向を注視していく。

ROAは比較的高いが、ビジネスモデルの特性から、利益は事業環境の変化に影響を受けやすい。グループ会社との融合が進み生産性が向上しているものの、なお改善の余地がある。IT資産の共有・クラウド化や拠点再編によりコストを削減していく方針だ。マネックス証券との金融仲介業務における包括業務提携でも証券口座システムの維持・管理コストが軽減される見通しだ。

リスク選好度はやや高いものの、リスクアペタイトフレームワークの整備が進んでいるため、リスクとリターンおよび資本とのバランスが大きく崩れることはないだろう。リスク耐久力はAゾーンに見合う。公的資金の返済は課題だが、将来的な返済に際して株主還元を一層強化しても、Aゾーンに見合うリスク耐久力を保っていけよう。

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp  
 ■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発行する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性(信用力)に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用格付以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付(変更・取り下げ等を含む)に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

2019年に米系ファンドが株式を売却して以降、日本政府が筆頭株主になっている。また、SBIホールディングスが日本政府に次ぐ第2位の株主にあり、所有比率は上昇している。株主構成の変化による経営への影響を注視していく。

#### ○アプラスフィナンシャル

新生銀行の連結子会社で、2020年12月に完全子会社となった。アプラスや消費者ローン事業を営むアプラスパーソナルローンなどを統括する中間持株会社。格付は新生銀行と同じにしている。

#### ○アプラス

アプラスフィナンシャルの完全子会社で信販大手の一角を占める。割賦、カード、融資、集金代行など多様な機能を持ち、商品・サービスのノウハウや加盟店ネットワークはグループ戦略で重要性が高い。格付は新生銀行と同じにしている。

リスク耐久力は格付に見合う。利息返還費用の負担はあるが、資産の質は問題ない。ショッピングクレジットやペイメントが成長してコロナ禍でも営業収益は前期並みを維持しているものの、収益力は格付対比で低く改善余地がある。グループ一体運営による営業推進や効率化策の進展を見守る。

#### ○新生フィナンシャル

新生銀行の完全子会社でグループにおける消費者向け無担保ローン事業の中心的役割を担う。グループにおける重要性は高く、格付は新生銀行と同じにしている。消費者ローンの分野で「レイク」ブランドは知名度が高い。新生銀行と合算した消費者ローン残高はコロナ禍の影響などでやや減少しているものの、新生フィナンシャルのレイクALSAの残高は増加している。

資産の質は問題ない。信用コストを抑制し、一定の利益水準を確保しているが、今後の所得・雇用情勢の悪化には注意を要する。資本や利息返還損失引当金は厚く、リスク耐久力は格付に十分見合う。

#### ○昭和リース

新生銀行の完全子会社で、リースやアセットファイナンス事業を担う。中堅・中小企業の顧客基盤や物件価値に基づくファイナンス機能は重要性が高く、格付は新生銀行と同じにしている。建設機械のリースの取り扱いが多い。中古建機の専門商社やクレーンレンタル会社への出資に加え、神鋼リースを子会社化するなど建機の専門性を高めている。

リスク耐久力は格付に十分見合う。資産の質は問題なく、信用コストが急激に増加することは考えにくい。コロナ禍の影響もあり手数料ビジネスが伸び悩む中で、収益力をいかに回復させるかが課題だ。ITによる効率化や神鋼リースとのシナジー発揮・パートナービジネス拡大の進捗を見守る。

#### 【格付対象】

発行者：新生銀行（証券コード：8303）

名称	格付		格付の方向性	
発行体格付	A-（維持）		安定的	
名称	発行予定額 （億円）	発行予定期間		予備格付
発行登録（社債）	3,000	2020年04月14日～2022年04月13日		A-（維持）
名称	発行総額 （億円）	発行日	償還日	格付
第4回無担保社債	100	2016年10月27日	2021年10月27日	A-（維持）
第5回無担保社債	100	2018年07月13日	2023年07月13日	A-（維持）

■お問合せ先：マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先：経営企画室（広報担当） TEL. 03-6273-7273

株式会社格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発行する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

第6回無担保社債	100	2018年12月13日	2023年12月13日	A- (維持)
第7回無担保社債	100	2019年10月10日	2022年10月07日	A- (維持)
第8回無担保社債	200	2019年10月10日	2024年10月10日	A- (維持)
第9回無担保社債	200	2020年01月23日	2023年01月23日	A- (維持)
第10回無担保社債	300	2020年01月23日	2025年01月23日	A- (維持)
第11回無担保社債	300	2020年07月09日	2023年07月07日	A- (維持)
第12回無担保社債	300	2020年07月09日	2025年07月09日	A- (維持)
第13回無担保社債	100	2021年03月12日	2024年03月12日	A- (維持)
名称	格付			
短期債務	a-1 (維持)			

## 発行者：アプラスフィナンシャル

名称	格付	格付の方向性		
発行体格付	A- (維持)	安定的		
名称	発行総額 (億円)	発行日	償還日	格付
第5回無担保社債	100	2018年10月15日	2023年10月13日	A- (維持)
第6回無担保社債	100	2019年12月05日	2024年12月05日	A- (維持)

## 発行者：アプラス

名称	格付	格付の方向性		
発行体格付	A- (維持)	安定的		
名称	発行限度額 (億円)	担保・保証 保証会社等	格付	
コマーシャルペーパー	2,700	無担保	a-1 (維持)	

## 発行者：新生フィナンシャル

名称	格付	格付の方向性
発行体格付	A- (維持)	安定的

## 発行者：昭和リース

名称	格付	格付の方向性		
発行体格付	A- (維持)	安定的		
名称	発行総額 (億円)	発行日	償還日	格付
第3回無担保社債	100	2018年07月31日	2023年07月31日	A- (維持)
第4回無担保社債	100	2019年12月18日	2024年12月18日	A- (維持)

☆予備格付は、個別債務の最終的な条件が決定されていない段階で予備的な信用格付が必要となる場合に、付与する評価です。個別債務の最終的な契約内容等によっては、予備格付とは異なる信用格付が付されることがあります。

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性(信用力)に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付(変更・取り下げ等を含む)に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

## 信用格付に関わる事項

信用格付業者 登録番号	株式会社格付投資情報センター 金融庁長官（格付）第6号 直近一年以内に講じられた監督上の措置は、ありません。
主任格付アナリスト	新生銀行：松島 賢宗 アプラスフィナンシャル、アプラス、新生フィナンシャル ：肝付 卓也 昭和リース：和田 あゆみ
信用格付の付与について 代表して責任を有する者	住田 直伸

信用格付を付与した日	2021年04月27日
主要な格付方法	事業法人等の信用格付の基本的な考え方 [2018. 05. 31] 金融機関等に共通する格付の考え方 [2020. 03. 23] 預金取扱金融機関 [2019. 02. 21] 消費者金融 [2020. 06. 12] クレジットカード・信販 [2019. 06. 19] リース [2020. 04. 24] 金融グループの格付の考え方 [2018. 08. 09]
上記格付方法は、格付を行うにあたり考慮した他の格付方法とともに以下のウェブサイトに掲載 しています。 <a href="https://www.r-i.co.jp/rating/about/rating_method.html">https://www.r-i.co.jp/rating/about/rating_method.html</a>	
評価の前提は、以下のウェブサイトの格付付与方針に掲載しています。 <a href="https://www.r-i.co.jp/rating/about/rating_grant.html">https://www.r-i.co.jp/rating/about/rating_grant.html</a>	
格付符号とその定義は、以下のウェブサイトに掲載しています。 <a href="https://www.r-i.co.jp/rating/about/definition.html">https://www.r-i.co.jp/rating/about/definition.html</a>	
格付関係者	新生銀行、アプラスフィナンシャル、アプラス、 新生フィナンシャル、昭和リース
注 格付関係者は、金融商品取引業等に関する内閣府令第三百七条に基づいて、R&Iが判断したものです。	
利用した主要な情報 品質確保のための措置	決算書類、開示情報、格付関係者から入手した情報等 公認会計士の監査済みである、またはそれに準じた信頼性が確保され ている決算書類であること。一般に開示された、またはそれに準じた 信頼性が確保されている情報であること。格付アナリストが妥当性を 判断した情報であること。
情報提供者	格付関係者
信用格付の前提、意義及び限界 R&Iの信用格付は、発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約 定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見です。R&Iは信用格付によって、個々の債 務等の流動性リスク、市場価値リスク、価格変動リスク等、信用リスク以外のリスクについて、何 ら意見を表明するものではありません。信用格付は、いかなる意味においても、現在・過去・将来 の事実の表明ではありません。また、R&Iは、明示・黙示を問わず、提供する信用格付、又はその 他の意見についての正確性、適時性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項 について、いかなる保証もしていません。 R&Iは、信用格付を行うに際して用いた情報に対し、品質確保の措置を講じていますが、これら の情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&Iは、必要と判断した場合 には、信用格付を変更することがあります。また、資料・情報の不足や、その他の状況により、信	

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

株式会社格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

用格付を取り下げることがあります。

利息・配当の繰り延べ、元本の返済猶予、債務免除等の条項がある債務等の格付は、その蓋然性が高まったとR&Iが判断した場合、発行体格付又は保険金支払能力とのノッチ差を拡大することがあります。

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

株式会社格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発行する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性(信用力)に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付(変更・取り下げ等を含む)に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。